

平成31(2019)年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 瑞穂野南小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります、その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成31(2019)年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成31(2019)年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年(国語、算数、理科、質問紙)

4 本校の実施状況

第4学年	国語	28人	算数	28人	理科	28人
第5学年	国語	24人	算数	24人	理科	24人

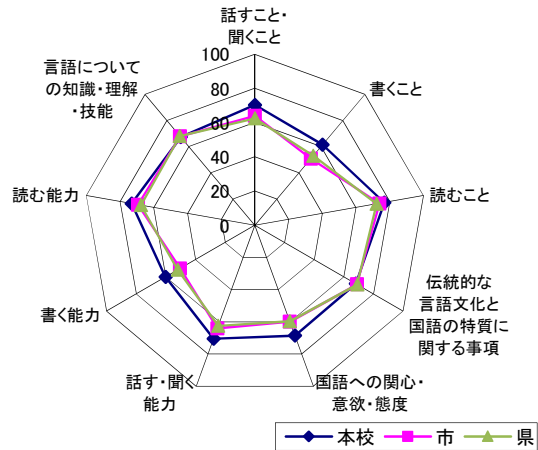
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立瑞穂野南小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	70.4	64.0	62.5
	書くこと	61.6	50.9	53.1
	読むこと	76.8	73.9	72.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	68.2	68.9	69.1
観点	国語への関心・意欲・態度	68.5	59.9	59.7
	話す・聞く能力	70.4	64.0	62.5
	書く能力	60.2	50.4	52.0
	読む能力	73.1	69.3	67.6
	言語についての知識・理解・技能	67.4	67.9	68.2



★指導の工夫と改善

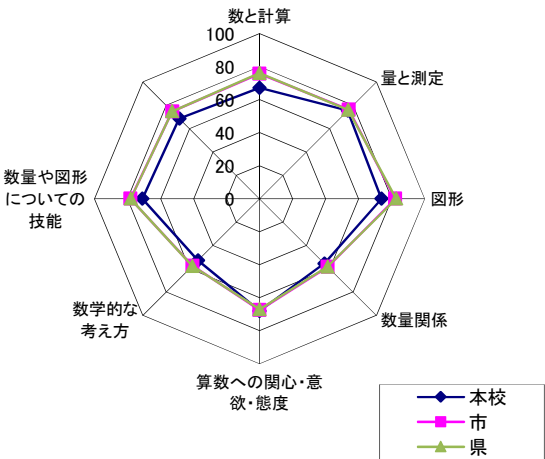
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	・平均正答率は、70.4%で、市の平均を6.4ポイント上回り、県の平均からは7.9ポイント上回っている。 ○話し方の工夫に気を付けて聞き取る問題では、県の平均を14.1ポイント上回っている。 ●互いの考えの共通点や相違点を問う問題や、話し方の工夫を問う問題、話の中心は何かを問う問題はいずれも市と県の平均を下回っている。	・ 日常的に話の聞き方を意識させるとともに、国語の学習では話の中心に気を付けて聞くことや要点に注意して聞くことの指導を繰り返し行っていく。 ・ 場に応じた話し方や相手に伝わる話し方の指導を、今後も継続して行っていく。
書くこと	・平均正答率は、61.6%で、市の平均を10.7ポイント上回り、県の平均からは8.5ポイント上回っている。 ○書こうとすることを明確にして、文章を書く問題では、正答率が高くなっている。 ●招待する手紙を取り上げた問題では、無回答率が高い。	・ 相手意識や目的意識をもち、趣旨を明確にして、書く内容を決めたり、書く順序を押さえたりすることで書く目的に沿った内容の文章を書く力を育てていきたい。 ・ 文章で表現する機会を充実させ、文章を書くことに慣れることができるように、「書くことの日常化」をこれまで以上に充実させていきたい。
読むこと	・平均正答率は、76.8%で、市の平均を0.7ポイント上回り、県の平均を4.6ポイント上回っている。 ○叙述を基に、場面の様子を読みとることや、登場人物の気持ちを読みとる設問では、正答率が高い。 ●叙述を基に、関係する語を見つけだすことはできるが、内容を正確に読みとることができない。	・ 様々な文章(物語、説明文等)を読む機会や、読解力を問う問題に触れる機会をこれからも意図的に増やして指導していく。 ・ 読書を推奨するだけでなく、いろいろな分野の本と触れ合えるよう指導していく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	・平均正答率は、68.2%で、県や市の平均とほぼ同じである。 ○漢字の読みの問題では、全員が正答している問もある。 ●漢字を書く問題に関しては、正答率が高いとは言えない。特に無回答が20%を超える問題もある。 ●文の構成(主語・述語)の理解を問う問題の正答率が低い。	・ 漢字を正しく書くこと、正しく読むことの両方に重点をおき、継続して指導していく。特に既習の漢字をがっちり学習や宿題に朱書きするなどして繰り返し指導を行っていく。 ・ 日記や作文指導を定期的に行い、原稿用紙を正しく使えるようアドバイスをし推敲するなどして、繰り返し指導していく。 ・ 文の主語・述語に関しても学習の中で意図的に問いかけ、理解の定着を図る。

宇都宮市立瑞穂野南小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	67.2	75.8	76.1
	量と測定	75.5	76.5	76.0
	図形	73.8	82.1	82.7
	数量関係	55.5	58.4	58.2
観点	算数への関心・意欲・態度	67.9	67.4	67.0
	数学的な考え方	52.8	57.5	57.7
	数量や図形についての技能	71.0	78.2	78.1
	数量や図形についての知識・理解	68.8	74.8	74.9



★指導の工夫と改善

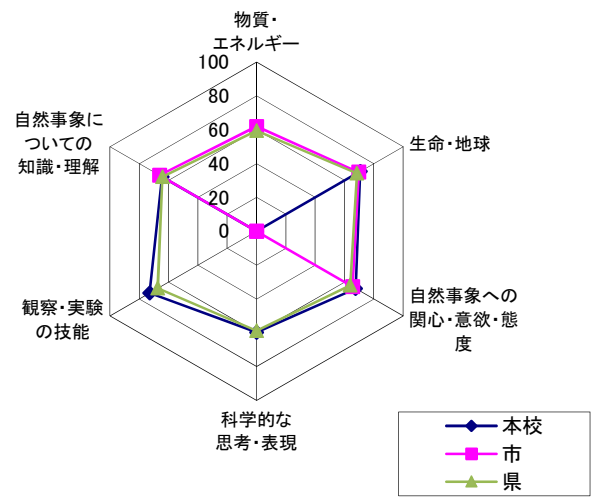
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	- 平均正答率は67.2%で、市の平均から8.6ポイント、県の平均から8.9ポイント下回っている。 ○「七の段の九九ができる。」の計算は、正答率100%であり、県の正答率を3ポイント上回っている。 ○大きな数を求める問題の正答率は89.9%で県の平均を3.9ポイント上回った。 ●「整数－小数第一位の計算」の正答率は32.1%で、県の平均を24.7ポイント下回った。	- 計算を正確にすることや、位をそろえて計算をすることなど、基本的な計算の技能を身につけられるように繰り返し練習させ、定着を図る。 - 小数や分数の構成を理解できるように具体物を使ったり、図に示したりするなど段階的に指導していくとともに、児童が生活場面を想起できるような問題を取り入れ、実生活の場面と結び付けて考えられるようにしていきたい。
量と測定	- 平均正答率は75.5%で、市の平均を1.5ポイント、県の平均を0.5ポイント下回っている。 ○道のりを問う問題では、道のりの意味を理解したり、長さの大小の表し方を理解したりできている児童が多く、県の正答率を6ポイント程度上回っている。 ●時間の単位を変換する問題では、正答率が64.3%で県の平均を10.1ポイント下回った。	分と秒の単位関係について、実感を伴った理解を促すために、時計の秒針やストップウォッチの針の動きで時間を感覚的にとらえることや、60のまとまりで考えることを意識させて、指導していく。
図形	- 平均正答率は73.8%で、市の平均を8.3ポイント、県の平均を8.9ポイント下回っている。 ●球の半径から、球が入った箱の辺の長さを求める問題では、正答率は53.6%で、県の平均を14.9ポイント下回っている。 ●正三角形を作図する問題では、正答率は82.1%で県の平均を7.7ポイント下回った。	- 円の半径と直径の関係を理解させるために、問題から読み取れた情報を図に書き込むことを、様々な問題で繰り返し指導し、学習内容の定着を図る。 - 作図については、引き続き児童の技能の定着を図るために、生活場面で使う場を作ったり、投げかけたりしていく。
数量関係	- 平均正答率は55.5%で、市の平均を2.9ポイント、県の平均を2.7ポイント下回った。 ○□を使った乗法の式に合った文章問題を選ぶ問題では、正答率は53.6%で県の平均を6.3ポイント上回っている。 ●□を使った減法の式を表した図を選ぶ問題では、正答率は67.9%で県の平均を15.6ポイント下回った。	文章問題では、問題の場面を図に表して考えさせるようにし、正しく立式できるように指導する。図に表す際に、数の大小を比較したり、求められている数は何かを確認したりして、段階的に正確に図に表すことができるように支援していく。

宇都宮市立瑞穂野南小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	59.5	61.9	59.4
	生命・地球	70.8	69.8	68.5
観点	自然事象への関心・意欲・態度	67.6	65.6	63.9
	科学的な思考・表現	59.7	61.0	58.8
	観察・実験の技能	72.9	69.0	67.4
	自然事象についての知識・理解	64.4	66.1	64.2



★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	- 平均正答率は59.5%で、市の平均を2.4ポイント下回り、県の平均を0.1ポイント上回っている。 ○「風やゴムのはたらきについて」の実験結果のまとめの文章を書く問題では、平均正答率が89.3%で県の平均正答率を14.5ポイント上回った。 ●磁石の性質を応用して、ゼムクリップの磁性を考える問題では平均正答率が35.7%で県の平均を14.1ポイントを下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの 磁石の性質を理解し定着させるためには、様々な実験を行い実験結果から分かったことを図や文章で丁寧にまとめるようにする。また、実験したことを、自分の生活の中の身近な事象に関連付けて考えたり、日常の中でそれらの知識を生かしたりできるようにしたい。
生命・地球	- 平均正答率は70.8%で、市の平均を1ポイント、県の平均を2.3ポイント上回っている。 ○「昆虫の育ち方」の卵から成虫になるまでのおよその期間の問題では、平均正答率が67.9%で県の平均正答率を9.4ポイント上回った。 ●太陽と影のうごきについての問題では、平均正答率が25.0%で県の平均を6.6ポイントを下回った。	身近な生活の中で昆虫の様子に関心をもち、よく観察していることが良い結果になっていると考えられる。太陽と影の関係についても同様に、生活の中で理科的な視点をもって様々な事象をみるような視野と視点をもてるよう働きかけたい。

宇都宮市立瑞穂野南小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「学びの基礎力や学びに向かう力、社会的実践力、学級力、家庭学習力等」の項目のほとんどで、県の肯定的回答率を上回っている。

○「家で学校の復習をしている」「家でテストで間違えた問題について勉強している」「家で決められた宿題の他に自分で考えた勉強をしている。」の3項目で、肯定的回答率が県や市よりも20ポイント以上、上回っている。

○授業で自分の考えを文章にまとめたり、友達の前で自分の考えや意見を発表したりする項目で肯定的回答が高い。

●テレビ、ビデオ、DVDの視聴時間が4時間以上との回答が、県の平均を10ポイント上回っている。

・肯定的回答率の高い項目については、今後も意識の継続が図れるように指導や支援をしていく。

・どの項目についても、全体的に肯定的回答率が高いが、自己評価と実態に差がみられる。個別に声掛けをしたり、個人懇談等で保護者と共有したりするなどして、確実に力が身に付くようにしていく。

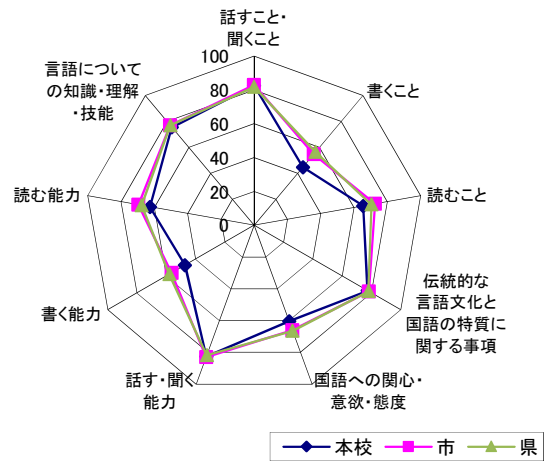
・学年だよりや学級懇談会などを通して児童の学習の様子を伝えたり、家庭学習ファイルの活用や家庭学習強化週間の設定・充実等家庭との連携を図ったりして、さらに家庭学習の習慣性を図る。

・テレビ、ビデオ、DVDの視聴時間の長さについては、読書時間の少なさと関連していると思われる。家庭への啓発とともに、学活や道徳における情報教育を重点的に行う。さらに、学校での図書館教育はもちろんのこと、家庭読書をより一層充実させ、家庭で本に触れることが日常化するようにしていく。

宇都宮市立瑞穂野南小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	82.6	82.9	81.8
	書くこと	44.8	54.8	56.5
	読むこと	65.5	72.6	70.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	77.4	78.4	78.1
観点	国語への関心・意欲・態度	60.4	66.0	66.4
	話す・聞く能力	82.6	82.9	81.8
	書く能力	47.3	56.3	57.9
	読む能力	62.6	69.5	67.6
	言語についての知識・理解・技能	75.7	77.2	77.1



★指導の工夫と改善

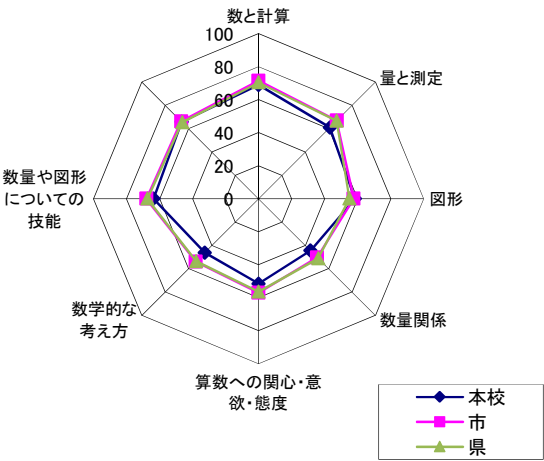
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	・平均正答率は、82.6%で、市の平均を0.3ポイント下回り、県の平均を0.8ポイント上回っている。 ○話し合いの中心や工夫している点を聞きとる問題の正答率は80%以上であり、よく理解している。	・ 話し合いをする際には、話をする内容ばかりに目を向けて話したり聞いたりするのではなく、司会者の役割を考えながら参加することを指導していく。さらに、話し合いの目的に合わせた司会者の役割や進め方も指導していく。
書くこと	・平均正答率は、44.8%で、市の平均を10.ポイント下回り、県の平均を11.7ポイント下回っている。 ●指定された構成で文章を書く問題や、書くこととすることの中心を明確にして文章を書く問題の誤答や無答が多い。	・ 授業において、段落構成を指定したり、書くことの中心を明確にしたりして文章を書く機会を意識的に設定していくことで、書く力を向上させていく。 ・ 特に無回答が多いので、「うそ作文」や「日記」などの児童が意欲的に書く書くことに取り組める機会を増やし、書くことの楽しさを味わわせる。
読むこと	・平均正答率は、65.5%で、市の平均を7.1ポイント下回り、県の平均を5ポイント下回っている。 ○説明文の内容を読みとる問題では、段落のまとまりを理解して文章を的確に読みとる問題の正答率が県の平均を上回っている。 ●登場人物の心情を読みとる問題では、正答率が低い。	・ 文章の内容を確認する際には、要点を確認するだけでなく、要約した文を書くことも合わせて指導していくことで定着を図っていく。 ・ 教科書の物語文の面白さを共有するだけでなく、児童の読んだ本や教師の勧める本の面白さを共有する場を設定し、多様な設定の登場人物や、特徴的な描写にふれることができるようにすることで、さらに「読むこと」の向上を図っていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	・平均正答率は、77.4%で、市の平均を1ポイント下回り、県の平均を0.7ポイント下回っている。 ○漢字の書きを問う問題では、4問中2問が県の平均を上回っている。 ●漢字の読みを問う問題では、4問中2問が県の平均を下回っている。	・ 漢字の学習では、実際の生活の中で使い方を考えさせたり、考えたことを交流したりしていく場を作り、楽しみながら正しく使えるように指導していく。

宇都宮市立瑞穂野南小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	68.9	71.5	70.4
	量と測定	61.1	67.0	66.9
	図形	58.3	57.6	55.0
	数量関係	44.4	50.2	51.1
観点	算数への関心・意欲・態度	51.4	57.0	56.3
	数学的な考え方	46.2	53.8	53.6
	数量や図形についての技能	63.6	68.0	67.4
	数量や図形についての知識・理解	65.9	66.3	65.4



★指導の工夫と改善

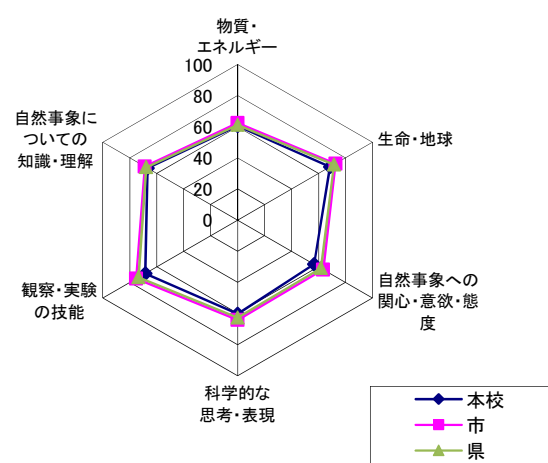
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	- 平均正答率は68.9%で、市の平均を2.6ポイント下回り、県の平均を11.5ポイント下回っている。 ○ 数直線上に示された分数を読み取る問題では、正答率が100%で、県の平均を14.3ポイント上回っている。 ● 小数と整数の除法の正答率は41.7%で県の平均を18.2ポイント下回った。	- 計算を正確にすることや、分数、概数の表し方などについては、おおむね定着している。引き続き、基本的な計算の技能を身につけられるように繰り返し練習させ、定着を図りたい。 - 整数の2けた÷1けたの正答率95.8ポイントと高い結果に対して3けた÷2けたの正答率が62.5ポイントと低い結果であることから、位の大きい数どうしの割り算の計算練習に繰り返し取り組みませ、答えに小数点の付く計算の習熟を図っていく。
量と測定	- 平均正答率は61.1%で、市の平均を5.9ポイント、県の平均も5.8ポイント下回っている。 ● 5等分した長方形の1つの辺の長さを求める問題の正答率は41.7%で県の平均正答率を16.8ポイント下回っている。	- 児童の身の回りのものについて、大きさや重さなどを予想し、実際に測定してみるという活動を多く取り入れ、量の感覚をさらに身に付けていけるようにする。 - 問題をよく読み、その意味を考えヒントとして活用できるよう、着眼点を指導しながら同様の問題で習熟を図っていく。
図形	- 平均正答率は58.3%で、市の平均を0.7ポイント、県の平均を3.3ポイント上回っている。 ○ 直方体にある辺に垂直な辺を選ぶ問題の平均正答率は、87.5%で県の平均を22.6ポイント上回った。 ● ひし形を作図する問題の平均正答率は、70.8%で県の平均を9.2ポイント下回った。	- 立体の具体物を用いた学習を取り入れ、図形の豊かな感覚をさらに高めていきたい。 - 作図については、引き続き児童の技能の定着を図るために、生活場面で使う場を作ったり、投げかけたりしていく。
数量関係	- 平均正答率は44.4%で、市の平均を5.8ポイント、県の平均正答率も6.7ポイント下回っている。 ● 伴って変わる2つの数量の関係を式に表す問題の平均正答率は、25.0%で県の平均正答率を11.7ポイント下回り、課題がみられる。	表を横や縦に見て、2つの数量の対応や変わり方の特徴を見付けさせたり、表のどの数値でもその関係が成り立つことを確認させたりして、比例の式が求められるようにする。

宇都宮市立瑞穂野南小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	60.4	62.4	61.1
	生命・地球	68.5	72.5	71.4
観点	自然事象への関心・意欲・態度	56.7	63.4	61.7
	科学的な思考・表現	60.2	64.1	62.6
	観察・実験の技能	68.5	75.2	73.5
	自然事象についての知識・理解	66.8	68.8	67.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	- 平均正答率は、60.4%で、市の平均を2ポイント、県の平均も0.7ポイント下回っている。 ○「物の体積と温度」についての問題では、平均正答率が91.7%で県の平均正答率を18.5ポイント上回った。 ●「金属の温まり方」についての問題では、平均正答率が50.0%で県の平均正答率を15ポイント下回った。	物質・エネルギーの問題に関しては、授業中の実験結果から得た知識を生かして考えることが難しいので、学んだことと関連付けて考えることができるように、学習の中で様々な場面を紹介したり、自分で理解したことを説明できる場面を増やしたりして考えを深めていきたい。
生命・地球	- 平均正答率は、68.5%で、市の平均を4ポイント、県の平均も2.9ポイント下回っている。 ○「1年間の植物の成長の様子」についての問題では、平均正答率が100%で県の平均正答率を9.1ポイント上回った。 ●「自然の中の水について」の容器にふたがあると蒸発した水は出ていかず、内側に水滴がつくことを理解する問題の平均正答率は20.8%で県の平均正答率を23.8ポイント下回り、課題が見られた。	生命・地球の問題に関しては、「月の動き」の観察が苦手なので、観察や映像を使って学習内容を確実に定着させる。また、結果を考察する際に、表などを取り入れ、整理して分かりやすく丁寧にまとめたり、学習で学んだ語句や実験結果などをキーワードとして提示し、それらを活用してまとめたりさせることで、理解を深める。

宇都宮市立瑞穂野南小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○昨年同様、「学びの基礎力や学びに向かう力、社会的実践力、学級力」の項目のほとんどで、県の肯定的回答率を上回っている。

●「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことが難しい」の項目で、「はい」と回答している割合が41.7%で、県の平均回答率を13.1ポイント上回っている。

●読書については、1か月に読む冊数(10冊程度)が多い児童もいるが、1、2冊しか読まないという回答についても、県の平均回答率を11ポイント上回っている。

・肯定的回答率が高い項目については、今後も意識の継続が図れるように指導と支援をしていく。

・どの項目についても、全体的に肯定的回答率が高いが、自己評価と実態に差が見られる。自己肯定感をもちつつ、客観的に自分の学習や生活を振り返り、次のステップへ生かせるようにしていく。

・自分の考えを書くことについては、授業の中で意図的にまとめて書く活動を取り入れたり、書いたものを認め合ったりするなどして、書くことに自信をもてるようにしていく。

・学年だよりや学級懇談会等を通して、児童の学習の様子を伝えとともに、学ぶ力について啓発をしていく。

・読書については、国語や学活の時間を通して、本に親しむようにするとともに、家庭読書をより一層充実させ、本に触れることが日常化するようにしていく。

宇都宮市立瑞穂野南小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
家庭学習の習慣化への取り組み	3～6年生は「家庭学習ファイル」を活用し、週ごとにめあてや振り返りを積み重ねている。毎日提出されたノートを見取り、励ましのコメントなどを書いて指導をしている。	4・5年生ともに「家で学校の宿題をしている」に肯定的回答をした児童の割合は100%である。しかし、「家で、学校や塾で決められた勉強のほかに自分で考えた勉強をしている」に肯定的回答をした児童の割合は80%だったので継続して指導していきたい。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
教科に関する調査結果から、数と計算の領域の「整数－小数第一位の計算」の正答率が県の平均より24.7ポイント下回り、小数と整数の除法の正答率が県の平均を18.2ポイント下回るなど、十分に学習内容が定着していないと思われる項目がいくつかあった。	がっちり学習や宿題などで復習をしていくことで学習内容の定着を図る。	朝の学習の時間で復習させ、できなかった問題は繰り返し取り組ませ、コメントや助言をすることで定着を図る。また、単元導入として、既習の学習内容を復習するプリントなどに取り組ませ、理解を深めてから新たな学習に取り組ませるというサイクルを定着させる。